

「アレルギーの臨床に寄せる」 - 806 -
【矢追インパクト療法】
全く違う病気のご夫婦を治療

東京渋谷 山脇診療所
山脇 昂

60代後半の女性が遠くから来院した。右肩関節が痛くて痛くて寝られないという訴えで、整形外科医院を数箇所受診したがだめで、矢追インパクト療法が良いと聞いて探して探して受診した。肩関節周囲炎で寝返り打つとズーンと痛くなり、寝ていられないという。そばで夫が大鼾で寝ていて、その騒音で又寝られない状態が1年半以上続いたという。矢追インパクト療法を肩に1~2回やったら肩の痛みがだいぶ軽減した。何を思ったか大鼾をかく夫を連れてきた。その夫にも矢追インパクト療法をやったらその晩から全く鼾をしなくなった。自分の肩の痛みも消失し、夫の鼾も消失し、不眠が一挙に解決しましたと喜んでおられた。妻の肩関節周囲炎と夫の睡眠時無呼吸症候群を一挙に治療しました。

もう一組のご夫婦の例、70歳前半の女性が来院された。バレーの指導者の指導を長らくやっておられたという。骨粗鬆症で腰が痛く、股関節が摩耗し足を引きずり目も見えずらくなり、体は反Uの字形で杖をつき、サングラスを懸てよぼよぼの状態で今にも転倒しそうな状態です。聞けば整形外科医院に通院し、〈骨粗鬆症を治すために、28回点滴をやった。点滴やる毎に状態が悪くなり、このようになった〉とタクシーの運転手に話したそうです。そのタクシーの運転手は私と懇意にしている人でしたが〈こういう療法もあるよ。そんな療法やめて矢追インパクト療法やりなさい〉とそのまま当院へ運んで来た。当院は2階にあり、やっと苦心して上がってきた。それを見た私は直ちに腹這に寝かせ、脊柱起立姿勢保持筋群と両下肢に矢追インパクト療法をやった。起こしてみたら、姿勢は真直ぐになり、杖は要らず、目も見えるようになり眼鏡も要らず、すたすたと歩いて、下に待たせてあるタクシーの所に行ったのでタクシーの運転手が驚いた。その夜夫と大喧嘩になったそうです。喧嘩の内容はわかりませんが、大喧嘩をする体力が出てきたことは確かです。その夫を連れてきました。夫は古式泳法をやっておられたと言います

が80代前半で体力も衰え、うつ病のような状態で今は何もやらず家で鎮座されている方です。痩せて長年タバコを吸うのと長年泳いでいたので体中シミと日焼けで黒い。後頭部に長年老人性脂漏性湿疹が広範囲にあり、痒くて痒くてしょうがない。頭髮もそのためか、うっすらとしています。脊柱起立筋群の補強と後頭部脂漏性湿疹を治すべく当該部に矢追インパクト療法をやりました。だんだん筋力も付き、行動も広範囲になり、後頭部湿疹も軽減し、頭髮も増えてきました。夫の家系は父も弟もつるつるに剥がれているそうです。そうこうしているうちに夫はそれが長年の夢だったんだと、新しい外車を購入しピカピカに磨き、誰にも触れさせず、奥さんを載せて、高野山とか別府温泉とかに遠出するようになりました。80数歳にしてこのような状況になった。妻の方には掌蹠膿疱症もありましたが、足局所に矢追インパクト療法をやると剥がれる様に良くなります。又出来ると又遣って何回か良くしました。妻は後で点滴してくれた整形外科医院へ行ったそうですが、そこでレントゲンを撮られて、〈骨粗鬆症が治っている〉と言われたそうです。このように骨粗鬆症・視力・うつ状態（多分うつ病）・脂漏性湿疹・掌蹠膿疱症の治療・増毛迄色々な疾患に有効でした。矢追先生は何にでも効くと言う事で、いかにもマスコミ受けを狙っていると言う事が「日本医事新法」に掲載を断られたと「平成医新 遺稿集」に述べておられます。免疫力を回復し、体力を増強することは若返り現象であり、すべての疾患に有効であると思います。古来すべからく望んでおられた事であり、それは皮内注射というごく簡単な操作で、体に滲みていく痛さを利用し、アナフィラキシーを起こさない程度の弱さで神経軸索反射を利用し、体を温かくするとなる。沁みていくのは抗酸化作用であり、体の老化（錆）を是正します。口に入れる辛子とかワサビとか色々な刺激物を摂取することを進められていますが、それらはやはり沁みて行って神経軸索反射を利用し体を温かくし、免疫力を回復し、体力を増強しているのです。燃焼エネルギーを多く使いますので、良く食べられない消耗性疾患には経口摂取はつらいですが、皮内注射ならそのような方にも可能です。少し血色が良くなり、少し食欲が付きます。その繰り返しをすればよいのです。明確な定義まだ無く、数字的にも表せませんが、免疫力とはそういうものだと思います。